

井原市公共交通会議（令和5年度第1回）議事録

と き 令和5年4月27日（木）

10：00～11：00

ところ 井原市民会館 鏡獅子の間

1. 開 会

会議の成立を報告

・出席者 委員 26名中 22名

2. 委嘱状交付・委員紹介

委員の異動について報告

大舌会長あいさつ

・いばら桜フェスタ初開催について

・平櫛田中美術館リニューアルオープンについて

委員・事務局の自己紹介

3. 協 議

1) 令和4年度井原市公共交通会議事業報告について

・事務局より資料1について説明

(委員) 昨年地域での意見交換会や説明会等を20回近く開催したと聞き、事務局は大変だったと思う。先日、イベントの際にあいあいカーを周知したが高齢者の中には案内を見ていない人や認知していない人がまだ多いと感じた。事務局は大変だとは思いますが、今後も回数を増やして意見交換会や説明会等も続けてもらいたい。また、自宅から市中心部以外の場所にも行きたいという要望もあり、例えばあいあいカーで市民病院に到着後、市役所まで行くには自分でタクシーや路線バス等を利用する必要があると伝えているが、利用者自身も自宅から市中心部までの運行なので安価な運賃が利用できるかと割り切ってもらわなければならないと思う。あいあいカーはタクシー車両で運行しているが、小さなバスに近い乗り物だと説明をして、利用登録を勧めている。事務局でもメリットやデメリットも含めどういった仕組みであるかをわかりやすく説明してもらいたい。

(事務局) 利用者の視点に立った説明が非常に重要だと感じた。地域での会合等があった際はぜひ説明に伺いたい。

(会長) 地域で集まる機会があれば、その場を活用することであいあいカーの説明ができる。ぜひ事務局へご連絡頂きたい。

2) 令和4年度井原市公共交通会議歳入歳出決算について

・事務局より資料2について説明

(会長) 監査結果について報告をお願いしたい。

(監査委員) 適正に処理されていることを報告する。

【監査結果承認】

3) 令和5年度井原市公共交通会議事業計画(案)について

4) 令和5年度井原市公共交通会議予算(案)について

・事務局より資料3, 4について説明

(委員) 平櫛田中美術館のリニューアルオープンに関連した公共交通の情報提供について、前回会議の意見を取り入れてもらい感謝している。今年度は井原市政施行70周年と井原鉄道が25周年という記念すべき年なので、様々な連携を通じて多くの方に井原市に訪れてもらえるよう取り組んでいきたい。

(会長) 周年記念の年であるため、公共交通かわら版で井原鉄道を特集とした記事等も掲載し、連携してPRできれば良いと思う。

(委員) 後ほど報告はあるかと思うが、あいあいカーが始まって1年が経過し、今後も評価検証と改善をしながらより良い運行内容にしていくものだと理解している。中長期的なスケジュールのようなものがあれば教えてほしい。

(事務局) 昨年10月のあいあいカー本格運行にあたって、運行内容を変更しており、地域への説明会等も合わせて実施している。地域の要望やニーズに対しては現行制度で対応できていない部分があるが、地域に適した運行ができるよう、実現可能性も含めて検討し、柔軟に対応することでより良い仕組みにしていきたい。そのため決まったスパンではなく、1年を目処に継続して検証・検討していくこととしている。

(委員) 市のイベントやウェブサイト等で情報発信すると説明があったが、民間企業等での情報発信はできているのか。市が関わっている場所以外でも公共交通が便利だという情報発信があれば更に良くなるのではないか。

(事務局) 民間企業等の公共交通の情報提供については把握できていない。今後、公共交通を活用してもらえるよう様々な団体や企業に対しても情報発信の働きかけができれば良いと考えている。

- (委員) あいあいカーについては、公共交通かわら版の中でも話題にしているが、あいあいカーだけで移動できる範囲や乗り継いで利用できる公共交通機関に加えて、待合の環境等、利用後の行動も利用者にとっては重要な情報だと思う。これらの情報提供の状況はどのようになっているのか。
- (事務局) 先程の意見にもあったように、例えば利用者は病院まで利用した後、次の目的地まで行くまでにどの交通手段に乗り継げばよいかわからない人もいる状況である。今後、公共交通かわら版等を活用して、乗り継ぎの方法や乗り継ぎの時刻、代表的な目的地までのルート等を紹介することも必要だと思われるため、情報発信に力を入れたい。
また、昨年度の公共交通かわら版では、乗り継ぎ方法や乗り継ぎ先のバスや鉄道の時刻を紹介しているが十分にニーズを把握していない状態だったため、今年度は利用者のニーズに沿った形で目的地までの乗り継ぎ方法について周知をしていきたい。
- (委員) 民間企業のウェブサイトでは、駅から徒歩何分等は記載しているが、バス停等の公共交通の情報までは記載されていないと思う。市の働きかけで変わることもあるかもしれないのでぜひともお願いしたい。また、あいあいカーを予約をする際に、乗り継ぎを含めた最終的な目的地までの案内ができるようになれば非常に便利になる。また、車内でも例えば乗り継ぎで行ける目的地の案内やおすすめの目的地等、次の行動に繋がるような情報提供が必要だと思う。
- (会長) 行政が関わっていないイベント等においても、市から公共交通の案内ができると思う。連携強化のため商工会議所や民間企業等からも、ぜひイベント等の情報提供をお願いしたい。
- (委員) 現在、新町マルシェで空き地や公園を活用したイベントを開催しており、井原駅からのアクセスについて案内したいと考えている。民間企業においても井原駅から徒歩でかかる時間や、バスを利用する際の路線や乗り継ぎについて案内を一文追加してもらうのは容易に思える。
- (委員) 日の丸タクシーでは、あいあいカーの予約受付センターを担当している。最終目的地までの案内について、最終の目的地を予約の際に聞かなければ案内ができないため、今後は一步踏み込んで聞けるよう予約受付の対応を検討したい。イベント時でのウェブサイトや SNS を活用した情報発信は弊社でも実施しており、今後あいあいカーを含めて周知の効果を期待している。一方で、公共交通全体の情報発信という観点では不十分であるため今後も引き続き検討していきたい。

(事務局) 貴重な意見に感謝したい。まずは行政と関係があるイベント等と連携しながら公共交通の案内していきたい。民間企業のウェブサイトにおいても、どのような案内が良いか事務局でモデルケースを作成し、各団体・企業への働きかけを検討したい。また、乗継案内について公共交通かわら版はもちろん、車内での掲示や予約受付の場面等、効果的な方法を検討したい。おそらく自宅からの移動を前提に行動の計画を立てられると思うので、自宅等でも活用できる乗継案内を作成できれば良いと思う。利用者の立場に立った情報発信から利用者増に繋がるよう、引き続き努めていきたい。

(委員) 公共交通かわら版は、市広報に差し込む形で各世帯に配布しているが、市広報の記事の中にも含めることは難しいのか。自治会から色々な書類や配布物と共に手元に渡るため、紙1枚を差し込むより市広報の一部とした方が各家庭でも隅々まで読んでくれる上、その後も残してくれているのではないかと。私の家族は市広報を毎号綴じている。手続等の問題もあるかと思うが、より効果的なPR方法になると思うので検討をお願いしたい。また、北振バスのウェブサイトでも関連するイベントに関してはその都度情報発信しているが、閲覧数は伸びておらず、大々的な広報活動はまだ実施できていない。イベントと連携した公共交通の情報発信や案内についても、今年度実施するものからいくつか絞って広報活動を実施できれば、来年度に向けた効果検証も行うことができ、事業者側も対応しやすいと思う。

(事務局) 市広報は市政に関係する幅広い情報を掲載していることから、十分な掲載スペース確保が困難であるため、公共交通かわら版として折り込みで配布している状況である。あいあいカーの本格運行等の重要な情報発信の際にはスペースを確保して周知しているものの、定期的な掲載は難しいことをご理解頂きたい。また、可能な限りイベント等の情報を集め、市から積極的に公共交通を絡めた情報発信や案内をしていきたい。特に市が関係しないイベントや民間企業等での情報提供はどこかに絞ることが難しいため、その都度対応したいと考えている。

(会長) 今年度の周知・情報発信の効果については、年度末の公共交通会議等で交通事業者や各委員の皆さんからどのような変化があったか意見交換し、検証の場として活用してもらいたい。

(委員) 情報発信や周知に関連して、福山市の山野地区においてもあいあいカーが運行しており、導入の際は地域を回って説明している。福山市では他の地域でも乗合タクシーを運行しているが、80歳前後の高齢者の方に広く情報を伝えていくことが非常に難しいと感じている。あいあいカーについても詳細まで理解してもらうことは難しいため、簡単に説明できるような情報

を口コミで広げていくということが有効だと思われる。福山市でも説明会に参加者を通じて、参加していない地域の方々に口コミで広げてもらい、詳しい情報は市に聞いてほしいと伝えてもらうようお願いしているので井原市でも参考にしてもらいたい。

(委員) 公共交通かわら版も 10 年以上継続的に取り組んでおり情報発信において重要な役割を担っているが、次の段階として新たな取組を検討する時期に来ていると思う。例えばあいあいカーの説明会や出前講座の内容を短い動画にして、QR コードを読んでそれを観てもらうのはどうか。文章だけでは読んでもらえないことも多いので音声や画像も必要だと思われる。高齢者もスマートフォンを本人が持っていないくても家族が持っているケースも多いと思うので、ぜひ検討をお願いしたい。

(委員) 動画はとても良いと思う。紙と映像では見た後の理解度が違うので井原放送と連携してはどうか。費用の問題もあるかと思うが、ケーブルテレビ等でも積極的に取り上げてもらいたい。

(事務局) 井原放送であいあいカーの特集を放送したこともある。意見にあったような取組も今後の情報発信として検討したい。
地域代表の方々にお尋ねしたいが、スマートフォン等で動画を見る環境や機会があるか。

(委員) 地域で老人会があり、週に 1 回体操をしている。その際に動画を流してもらえば観ることができると思う。

(会長) 様々なメディアを活用して情報発信を検討してもらいたい。

【3)、4) 協議事項承認】

5) その他

【事務局より「あいあいカー」についての経過報告】

【その他、各委員からの意見】

(委員) 美星地区の耳が聞こえない方等の支援をしているが、あいあいカーによって外出ができており益々元気になっている。感謝を申し上げたい。あいあいカーの対象地区ではない井原地区の方から羨ましがられている声も多いと聞いている。

- (委員) 運行開始当初から近所の方があいあいカーを利用しており、行ける場所が広がり乗務員の対応も親切で有難いと聞いている。また、私の周りの高齢者は井原放送をよく観ているように感じる。スマートフォンで動画視聴をされる方はあまりいないと思う。
- (委員) 地域の方から通院後、ハローズ井原店に歩いて行ってあいあいカーで自宅に帰ることができるが、本当ならゆめタウン井原（高屋方面）まで行きたいという声を聞いている。
- (会長) 乗り継ぎについては更に周知していく必要があると感じている。
- (委員) 美星地区の中心部に暮らしているが、これまでも公共交通を利用してない地域だと思う。美星地区から井原地区の病院に行こうと思っても、帰りの時間が合わない等の理由で公共交通を利用してないと思われる。今後、運転免許返納等によって車を運転できなくなる人が増えると、必要とされると思うが現時点では利用する人が少ない状況である。
- (委員) あいあいカーは最近運行している様子を見るようになったが利用登録をしていない人がまだまだ多いと思われる。まずは利用登録を増やすことが重要だと思うので、電話での登録や家族にインターネットで登録してもらうことも含めて周知していくことが必要である。
- (委員) 美星町の鳴石地区に在住しているが一人暮らしの方が多く、美星町では福祉有償運送が運行していることもあり、そちらを利用している方もおられる。
- (委員) 井笠バスカンパニーでも、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、少しずつ利用者数も戻ってきている。より使いやすく、わかりやすいバスを目指すにあたって今年の夏頃に向けバスデータのオープン化に取り組み、運行情報や遅延情報等、案内を改善する予定である。また、笠岡市では 4 月 29 日に笠岡子どもフェスティバルがあり、子どもたちがメッセージを書いた鯉のぼりの鱗をバス車内に貼って 5/1～31 日の間で運行するイベントを実施する。バス車両は井原市内まで乗り入れているため、ぜひご利用頂きたい。
- (委員) 一丸タクシーから配信についての提案だが、各社ウェブサイトや SNS 等で情報発信をしているが、それはあくまで自主的にやっているものであるため、できればこの会の中で情報発信の委員会を立ち上げてはどうか。我々交通事業者も全てのイベントを把握している訳ではないため、委員会の参

加者に対して情報発信の依頼を市から参加者に向けて一斉にメール送信する等できれば、官民一体となって取り組むことに繋がると思う。また、公共交通に限らず様々な業種の事業者も参加してもらい一体となって公共交通を盛り上げる構造を作ることも重要だと思う。

(事務局) 時間は必要になるがしっかりと検討したい。

(会長) あいあいカーは芳井地区と美星地区で1時間ごとに運行しているため、委員の皆さんも会議に出席する際に利用して頂きたい。本日の会議の開催時刻は運行時間外だが、今後はあいあいカー利用に合わせた時刻に開催する試みも必要だと思う。

5. 閉会

(事務局) 本日も承認頂いた令和5年度事業計画案と予算案に基づき、今後取組を継続していきたい。次回の井原市公共交通会議は8月下旬頃を予定しており、時期が近づいたら案内したい。また、今後も制度や利用方法等の情報発信について継続して取り組んでいく。

(副会長) 本日は委員の皆さんの意見から、今後も取り組むべきことが多いと認識できた会議だった。新聞等で岡山県が昨年実施したパーソントリップ調査の速報版が報告されていたが、運転免許の有無により外出率が20ポイント程度も違っていた。高齢者の外出という点も非常に大事だが、実は若い世代の中にも運転できない方は多く、運転免許の有無が活動に大きな影響を与えている中、公共交通はその差を埋めるために大変重要で、様々な世代の方に提供できるサービスにしていく必要がある。そして様々な世代に情報が届くような周知も重要である。本日の意見を反映できるような一年にしていきたいので、委員の皆さんも引き続き会議に参加して沢山の意見を頂きたい。

以上